

「海の声キャンプ」 ～海の声を聴こう！～

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
10組	26組 62人	13組 39人	12組37名 (子ども21名、保護者18名) 福井県6組、岐阜県2組、富山県2組 大阪府1組、滋賀県1組

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・若狭湾で海の活動を通して、親と子がそれぞれに自然体験を楽しむ。
- ・親と子どもが同じ敷地で活動しながらも、少し離れて過ごすことにより、親が子の姿を再発見する機会とする。
- ・海の体験活動を身近に感じ、いろいろな体験活動への意欲を高める。

◆期日・期間

令和元年8月31日（土）～9月1日（日）〈1泊2日〉

◆参加者分析

事業の内容が周知されてきていることもあり、年々参加者の申し込みが増えてきた。中には、国立妙高青少年自然の家で行ったブース出展を通じて若狭湾のことを知り、興味をもって参加された家族もあった。

事後のアンケートを見ていると、「事業の内容が面白そうだから」という項目を選んでいる家族が多く、参加しようと思った家族のこの事業に対する期待が大きいものであること伺えた。また、他の事業にも子どもが参加し、そのことがきっかけでこの事業に参加した家族もあった。

◆企画のポイント

〈日程〉

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
8月31日 (土)	受付	オリエンテーション	昼食	はじまりのつどい	保護者：シーカヤック	子ども：磯遊び 磯観察	海活動	テント設営	夕食、入浴	自由時間 ※キャンプファイヤー			就寝
9月1日 (日)	起床	洗面 荷物整理	朝のつどい・浜散策	野外炊事 (カートンドック)	親子：シーカヤック 磯観察	海活動	解散 ※希望者：昼食						

前年度は、ファミリーフェスティバルと同時開催をしていたが、今年は、単独の開催となった。多くの人の中での活動をするよりも、単独に活動することで若狭湾の自然を満喫してもら

うねらいでもあった。今年も、海の活動を2回にし、内容は変えて実施した。

- 1日目に親と子どもが別々に活動することを通して、子ども同士のつながりを深めたり自立を促したりする。また、保護者には、若狭湾での海活動を満喫し、自然体験活動の良さを味わってもらおう。
- 2日目に親子で一緒に海活動する時間を設定し、今度は親子で若狭湾での自然体験活動をたっぷり味わってもらおう。

◆運営のポイント

○安全上の注意

- ・事前にスタッフがどの子どもを見るかを確認し、スタッフ全員で子どもの活動を見守るようにした。

○親子別の海活動

- ・自然体験活動を通して子ども同士のつながりを深めること、少しでも自立が促せるようにした。
- ・親自身にも自然体験活動を満喫してもらい、今後の自然体験活動への意欲付けとなるようにした。

○親子一緒に海活動

- ・2日目の親子一緒に海活動は、当日の朝に水泳、磯観察、シーカヤックから選択してもらい、どの活動でも対応できるようにした。

3. アンケート結果

(1) アンケート

<参加者>

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	82%	18%	0%	0%
事業全体の進め方はどうでしたか	64%	36%	0%	0%
海の活動はどうでしたか	82%	18%	0%	0%

- 「お父さんとお母さんと離れて活動するよ」と話して時は、子どもは、不安そうにしている嫌がっていたが、磯遊びに夢中になっている姿を見て安心しました。
- 1日目の活動では、親の存在が気にならないほど夢中で海遊びをしていてよかった。
- 1日目、親と離れて子どもが号泣していましたが、磯遊びの時に笑顔が見られてよかった。スタッフの方にいつのまにかなついて遊んでもらっていてとてもありがたかった。
- 先生の話の聞いたり、手伝いをしたり家ではなかなか見られない「外での姿」を見ることができた。
- 初めてのことが多く、楽しめました。
- ゆっくりする時間があってよかった。
- 適度に自由時間があり、休み時間もあってよかった。
- 子どもたちがみんなと仲良く遊んでいたのが良かった。
- まだ、4歳児なので、そこまで自立できていませんが、親と離れても子どもたちと仲良く遊んでくれてよかった。
- 楽しかったので、ぜひ継続してイベントを行ってほしい。
- 海がとてもきれいなので安全に楽しめた。
- 磯遊びした子どもは、魚やヒトデ、ウニを見たと楽しくいっていました。
- シーカヤックから見る景色もきれいでした。
- いつも子どもを遊ばせることばかり考えているが、親も子どもも離れて思いっきり遊べて楽しかった。
- シーカヤックが楽しかったです。活動時間もちょうどよかった。子どもを見てもらえて親だけの時間を作ってもらってありがたかった。
- シーカヤックをずっと楽しみにしていたので、体験できてすごく嬉しかったです。
- 親だけで、海を楽しむことはないのととてもありがたかった。久しぶりに親が楽しめた。いつもは子どもの監視がメインになるので。

- 小さい子対象なので、夜は早めに切り上げるのも方法だと思いました。遅くても（20時30分就寝）
- 外でキャンプをやってみたい。
- トイレが和式なので、洋式にしてほしい。（海の学習棟）

4. 成果と課題

(1) 成果

- 今年は、単独で開催したことで参加者がゆとりをもって活動を楽しむことができ、若狭湾の周りの山や海の自然を満喫している様子が見られた。
- 親と子が離れて活動するときは、泣いていた子もしばらくすると海の活動に興味を持ち楽しむ様子が見られた。
- 1日目は、深いところを怖がっている子もいたが、2日目になると海になれ10m離れた飛び込み台のところまで行き、飛び込みをチャレンジする様子が見られた。
- 飛び込みを怖がっていた子もいたが、周りの子のサポートもあり勇気を出して飛び込む様子が見られた。
- 磯遊びでは、子どもたちは海の生き物を見つけると触ったり、他の子に見せてあげたりして楽しんでいる様子が見られた。
- 磯遊びの活動中に、シーカヤックを楽しんでいる親が近くを通り、親に元気な姿を見せることもたちがいた。親の顔を見て泣く子がいると思ったが、海の活動を楽しんでいるためか、その様子を見せることはなかった。また、親も子どもと離れて活動していても個の様子が気になったようで、自分の子どもを見つては声をかけてほっとしている様子が見られた。
- 2日目の海の活動では、ほとんどの家族が親子一緒にシーカヤックを希望されていたので、前後半に分かれての活動であったが、それぞれに楽しんでもらえた。
- 子ども同士が仲良くなることで、親同士の繋がるも見られほかのイベントがあることなど情報交換をされていた。
- 子どもたちの海の活動では、自然体験を満喫するだけでなく、初めて出会った子どもたちがすぐに仲良くなり、一緒に活動することができた。
- 親と子が少し離れて活動する中で、親が子どもの活動の様子を見る機会があった。その時に、子どもたちだけで楽しく海活動をする姿を確認できたことがよかった。
- 初めて施設を利用された家族が、他の事業にも参加されいろいろな体験活動への意欲を高めることができた。

(2) 課題

- 2日目の朝の時間が、テントを片づけたり、朝の集いに参加したりと慌ただしい活動であったので、事業の参加者は様子を見て活動してもよいと思った。
- 数家族に親に子どもの様子を伝えられたが、親全員に子どもの活動の様子を伝えられなかったので、今後は、時間を見つけて伝えられる時間を作らないといけない。
- ほかの利用団体もあり、砂浜でのテント泊ができなかった。次回は、調整プログラムの時に利用できるようにしていきたい。
- 安全管理については、スタッフやボランティアの数が少なかつたため、少し心配した。スタッフやボランティアの連携もとれ、無事終わることができた。来年度は、ボランティアの参加を呼びかけ余裕をもって事業に取り組むようにしたい。

(3) 総括

若狭湾での海活動をそれぞれに楽しむ様子があった。子どもは、海の生き物を見つけたり、海で泳いだりして、安全な管理のもと、安心して楽しむ様子が見られた。また、親も子どもと離れて活動することで、ゆったりとした中で海の活動を楽しむことができたと思われる。普段、こうした体験活動を行うことができず、事業に参加することで自然体験活動を身近に感じてもらえたところもあった。

今後は、発達段階を考慮し、よりわかりやすい説明や安全管理など、低年齢の子ども達を対象にする活動ではより一層の配慮は必要で、今後、運営面での改善も必要であるが、参加された家族の活動の様子やアンケートの回答から、本事業のプログラムが設定したねらいに迫っていたのではないかと総括する。

5. 活動の様子

【親子別海活動】（子：海水浴・磯遊び）



（親：海水浴・磯遊び）



【親子で海活動】



【朝食作り】

